

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人奥州いさわ会		
事業所名	グループホーム めくもりの家		
所在地	〒023-0401 岩手県奥州市胆沢南都田字大持30番地		
自己評価作成日	令和6年8月1日	評価結果市町村受理日	令和6年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、胆沢高齢者総合施設めくもりの家の併設施設として開設23年目を迎えました。法人の基本理念「優しく、温かく、共に生きる」を念頭に、めくもりの家「利用者の幸せ、地域の幸せ、私たちの幸せ」の実現に向けて取り組んでおります。コロナ5類移行後から、外出、面会の緩和や、民生委員と協力して畑づくり、小学校の田植え見学を行うなど、以前のように少しずつご家族や、地域の方と関わる機会を作っております。また、保健・医療・福祉の各サービス事業所と連携を図り、重度化した場合も指針に基づいてご家族様の要望を受け入れながら対応したり、介護ロボット等の器機を使用し、利用者の自立支援による生活の質の維持・向上を目指した取り組みを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和3年に地域の保育と高齢者、障がい者支援分野の3つの法人が合併し、現在に至っている。理念には、法人理念と高齢者事業部門の理念、グループホームの介護理念とが重層的に定められているが、職員はその区分をよく理解し、毎月の確認を行いながらケアの実践に努めている。今年から移乗支援の介護ロボットの導入に積極的に取り組んでおり、利用者、職員ともに、その有効性を実感し成果を得ている。かかりつけ医療機関や行政の福祉部門が同じ敷地内にあり、連絡路でつながっていることから、医療や福祉行政との連携が大変効果的に構築されており、利用者への適切な介護支援の提供に効果を挙げている。近隣住民からは避難訓練において15人もの応援が得られるなど、とても心強い応援体制ができています。コロナ禍も過ぎつつあり、水沢厄年連の来訪や小中学校との交流活動も復活してきており、地域に欠かせない事業所として更に取り組みの成果が期待できる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年8月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	奥州いさわ会「法人基本理念・方針」を毎月1回全職員で会議の前に唱和をしている。また、グループホーム介護理念を掲示し、職員の意識統一や実践を目指している。	令和3年に法人が合併した際に法人全体の基本理念を策定しているほか、各事業部門別、各施設ごとの理念を定めている。毎月の職員会議では高齢者支援事業部門の理念「優しく温かく共に生きる」を全員で唱和し、また事業所の介護理念を事務室に掲示することにより、職員の意識化を図っている。年度末には事業目標の評価を職員間で行い、次年度の事業計画に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響によって地域とのつながりがほとんどなかったが、5類移行後は、地域のこども園や小学校、厄年連との交流などを行い、積極的に活動している。	コロナ禍前のような交流には戻っていないものの、法人内のこども園に出かけてお花見をしたり、小学校での読み聞かせ、中学校での職業紹介をPRするなど、利用者と共に出向くことを意識して、交流の機会を広げている。法人広報誌を年3回、近隣の50世帯ほどに配布し、各事業所での暮らしぶりを紹介している。利用者のリクエストに応じて水沢の厄年連の来訪もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献事業として、地域に出向いて認知症や看取りに関する出前講座を行っていたが、コロナの影響により現在まで活動は行うことができていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子、事業の運営状況、外部評価などを報告し、運営推進委員から助言や意見を頂きながら、さらなるサービスの向上に努めた。具体的に新たな取り組みとして、ヒヤリハットを報告し、意見を頂きながら、事故防止に努めている。	対面による会議とし、委員には家族代表のほか、民生委員、地元部落会長、老人クラブ代表などが参加しており、地域との連携を図るうえでバランス良い構成となっている。会議では運営状況の他にヒヤリハット等についても説明し、委員の理解を得ている。また、介護ロボットの導入についても話題提供し、関心を持っていただいた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者について、問題や課題が生じた時に、スムーズに解決できるよう、サービスの取り組みなどについて市町村関係者に伝え、連携を図っている。	市の保健福祉分野の拠点施設である悠悠館から職員が運営推進会議の委員として毎回の会議に参加しており、事業所の運営状況について良く理解していただいている。また、法人が受託している地域包括支援センターも、事業所建物と連絡路で繋って設置されており、日常的に連携が図られている。健康と福祉、長寿の里づくり推進拠点として医療、福祉、行政が連携する「達者の里」での連携行事等にも参加している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針に基づいて、定期的に研修会を行っている。実際に身体拘束の体験をして、身体拘束をしないケアの必要性、身体だけではない拘束について、正しく理解し、知識を身につけている。	「めくもりの家」全体の身体拘束廃止委員会が設置され、3ヵ月毎に開催される委員会には、事業所からも職員が参加している。会議内容は職員全員に回覧して共有化を図っている。スピーチロックに関する研修も行い、各自が自己チェックするほか、施設として「禁句集」を作成して、毎月確認している。離床センサーは、家族の了解を得て6人が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会・高齢者虐待防止委員会を設置して三か月に一回委員会を開催している。委員会を中心に、身体拘束や、高齢者虐待防止についての基礎的な学習、また体験研修の実施、職員禁句集を毎月読み、意識啓発に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や、成年後見人制度について学び、個別に検討している。現在は対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書と重要事項説明書に基づいて十分な説明と納得を得られている。その他にも、介護報酬改定に伴い、加算等に変更等があった場合も、家族に説明しその都度同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員と管理者・受付者・担当のポスターを掲示し、家族への周知を図っている。また、サービス担当者会議の際に、本人や家族の意向や要望を確認しケアプランへ反映できるようにしている。面会時にも、日常の様子を伝えるなど、ご家族との関係を密にし、意見や希望を話せるような雰囲気づくりに努めている。	法人全体で苦情解決に係る第三者委員を委嘱しているが、第三者委員を通しての苦情はない。家族からは、面会で来所の際に要望などを伺っている。面会時に他の利用者が気になるために個室での面会を希望されたり、オムツの使用についての要望もある。また、独自に家族アンケートを年1回行い、意見等を伺っている。家族との外食を希望する意見も出されている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見や要望提案について聞く機会を設けている。その際、施設長も参加し、直接意見や要望を設けている。必要に応じて改善、または助言等を行っている。	毎月の職員会議や毎日のケアの場面において、職員からは様々な意見が出されている。利用者へのケアの内容や、ハード面ではお風呂のレイアウトについて意見を下に改善に繋げている。職員との個人面談を年2回行い、仕事の進め方や研修希望等について把握に努めている。介護ロボットも職員の負担軽減を目的に導入したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、公正な評価が実施されている。また、代表者は、職員との直接の面談を行い、職員が向上心を持って働けるような環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や、職員研修などの内部での研修を受ける機会を作っている。また、その職員のスキルに応じて、個別にオンラインでの研修を受けてもらったり、医療的ケアや認知症介護実践者研修などに積極的に学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会の奥州・北上ブロックより研修会や講演会のお知らせは届いているが、参加はできていない。認知症実践者研修等に参加し、情報交換をし、サービスの向上に向けていく取り組みを実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームという小規模で家庭的な雰囲気の中で安心して過ごして頂くため、本人の想いに寄り添って話を聞くことで、不安や不穏を解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議の前に家族の意向を確認したり、要望等を聞き、不安解消に努めている。また、家族が話しやすい雰囲気づくりを意識し、良い関係性を築くことが出来ている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションを糸口に、本人と家族が最優先されるべきことは何かを見極め、職員間で検討し、最善な方法を選択できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳みや調理、掃除など一人一人が出来る範囲で役割を持って暮らし、共に支えあう関係性を築くことが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りを作成し、利用者の写真を添えて、日常生活の様子を伝えている。また、状態の変化に応じてその都度、電話や面会で報告したりするなど、家族と共に支えあう関係性が構築されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年の5月から居室での面会が再開され、家族や知人など有意義な時間を過ごして頂けるようにしている。また、自宅へ帰って家族と過ごすなど、本人と家族の絆を大事にしている。	ふるさと訪問として、自宅の玄関先まで出かける機会を作ったり、合築された特養ホームにいる知人が訪れる利用者もいる。理容については、毎月、地元の理容組合から理容師が来訪しており、新たな馴染みの関係となっている。また、正月には数名の利用者が近所の神社に元朝詣りに出掛けている。不定期のパンの移動販売の来訪や、民生委員と一緒にを行う畑づくりなども、利用者は楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や生活習慣、生活歴を把握し、必要に応じて職員が仲介に入るなど対応し、孤立せずともに支えあう雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族等に対して、入所時から培ってきた関係性を大切にしながら、契約が終了してもその都度相談や支援に応じている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、本人や家族の希望や、意向を必ず確認して把握している。困難な場合には、本人にとって最善策を検討してサービスが提供できるよう努めている。	言葉で思いや意向を話せる方は2人ほどとなっている。食事は出されたものを感謝して食べており、また、選択肢を示して外出希望などを伺っているが遠慮される方が多い。家族からは歩行の維持などの要望も出され対応しているほか、入浴後に化粧したいと希望する方には化粧道具を貸し出している。	利用者の思いや意向の把握に努めているものの、あまりうまく引き出せていない状況にあり、例えば、食事や外出の希望について、より工夫して丁寧に聞き出すよう取り組まれることを期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族に聞いたり、日々のアセスメントから、「暮らしの情報」を作成している。また、記録のソフトに入力することで、職員間で情報の共有を図ることが出来ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に1日の様子を記録し、情報の共有を図り、一人一の生活の様子や、現状について把握できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、課題を見出し職員間でカンファレンスを行っている。必要に応じて多職種と連携を図り、介護計画の立案をしている。立案したプランに沿い、月末には担当職員が評価をし、現状に応じた介護計画になるよう努めている。	入居当初は暫定のプランとし、6ヵ月経過後に見直しを行って正式なプランとしている。モニタリングは居室担当者が毎月行っており、プランの見直しは6ヵ月毎に行い、家族からの意見等も伺いながら、担当者とケアマネが話し合っで見直し案を作成し、職員カンファレンスでの意見交換を経て決定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ソフトに入力することで、食事量や排泄状況などは数値化され、個人のデータとして情報を共有することが出来ている。数値化できない項目についても、「メモ生活」で記録し、職員間で情報を共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かすことができています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保健・医療・福祉で構成される達者の里構成施設の中にあるため、廊下で繋がっている病院の訪問看護や訪問診療を受け入れたり、健康福祉課との連携をスムーズに受けることができるなど、ニーズに対して柔軟な支援やサービスを受けることが出来ている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館による月1回の紙芝居の貸し出しや、パンの移動販売、キッチンカーでの飲食など、地域の資源を活用しながら、本人が自身の力で選択して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または、家族の希望されるかかりつけ医と連携をして、適切な医療が受けることができるよう配慮している。	9人の入居者全員が、連絡通路で繋がる「まごころ病院」をかかりつけ医としており、歯科も含めて連携は十分に取られている。1名が往診で皮膚科を受診している。通院には家族が付き添う形としているが、夜間も含めて安心できる診療体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の特養兼務看護師の訪問日や状態の変化があった都度報告し、助言・指示をもらっている。必要に応じて、病院訪問看護師や、医療連携室との連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、家族から状態を聞くなど、可能な限り情報収集をしている。また、家族と主治医と話し合う機会を設けて、回復状況や早期退院に向けての情報交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応の指針について、家族に説明して同意を得ている。本人や、家族の意向を尊重した看取りが実施できるよう、医療機関との連携を強化して対応している。また、緊急時に備え、定期的に対応についてのロールプレイを実施し、速やかに対応できるようにしている。	入居時には重度化した場合の対応指針を示して説明しており、看取りを希望される方が多くなっている。看取りについては、まごころ病院の医師や看護師の協力が得られ職員には安心感もある。8月にも1名を看取らせていただいている。職員の研修として、緊急時のロールプレイやAED操作なども定期的に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、全職員を対象にAED研修を実施している。また、職員会議の際に、誤嚥時、緊急時また、行方不明時のマニュアルのロールプレイの実施、吸引器の取り扱いについての確認を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練を年に2回実施している。毎年7月には、地元の14部落自治会と協力して夜間想定避難訓練を実施している。また、緊急時のメールテスト、電話での連絡網での協力体制を築くことが出来ている。	ハザードマップでは浸水や土砂崩れ等の想定地域内となっておらず、主に火災想定避難訓練を、特養等を含めた「めくもりの家」の施設全体で、夜間想定も含め年2回行っている。訓練には近隣の自治会から住民15人ほどが参加して誘導や見守りを手伝っていただいている。災害時に備え、食糧3日分や自家発電機を備え停電時にも十分に対応できる体制が取られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」を月1回、全職員が読んで、自分の言動に立ち返られるようにしている。また、施設全体でプライバシー保護の研修会を実施し、人格を尊重した声掛け、対応ができるよう努めている。	現在は男性3名、女性6名が入居しているが、入浴時やトイレ使用時には、使用が重ならないよう、異性に配慮した対応を行なっている。また、失禁した際には、本人の気持ちに配慮して、安心感を与えるさり気ない言葉掛けに努めている。また、年1回はプライバシーや尊厳に関する職員研修も行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望は入所時に確認し、24時間シートに反映している。また、本人の希望があった際は自由に行ってもらえるよう配慮している。その他にも、掃除や食器洗い、洗濯物たたみなどを行い、本人の意思を尊重しながら自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を知り、その人らしさを大事した生活を送れるよう支援している。その時々希望に沿い、本人の気持ちを尊重しながらケアを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、月1回理容組合による理髪を受けることが出来る。また、化粧道具を常備しているため、入浴後化粧をしたりその人らしくおしゃれや身だしなみを整えている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、野菜のカット、皮むき、皿洗いなど、利用者一人一人の能力に応じて家庭的な雰囲気の中で役割を持ち、楽しみながら行うようにしている。	献立は、食材の内容を確認しながら職員が決めて調理に当たっている。利用者の好みや希望するものを提供し楽しんでもらうため、流しそうめんやスイカ割り、海鮮バーベキューを行ったり、誕生日のケーキ提供などの楽しみの時間を演出している。また、利用者は野菜切りなどの下拵えや下膳などを良く手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の、食事・水分量の記録を行っている。また、利用者の状態に応じた食事の提供や、代替品などを使用した水分量の摂取など工夫して食事提供が出来ている。月1回、栄養士と栄養管理会議を開催し、相談・助言を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後の口腔ケアと、就寝前の義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて、歯科受診を行ったりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導又はオムツ交換を行っている。移乗支援ロボットハグを使用したトイレ介助や、眠りスキャンを活用した夜間のトイレ誘導なども行い、排泄の自立支援に向けた取り組みを行っている。	今年3月から移乗支援の介護ロボットを導入し、3人が利用している。移動や排泄時の着脱や拭き取りもスムーズになり、利用者、介護職員とも負担軽減に効果が上がっている。布パンツ使用が1名、リハビリパンツ使用が8人となっている。また、排泄誘導のため、4名が夜間に「眠りスキャン」を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヤクルトやヨーグルトを提供している。また、便秘予防のため、水分摂取量が少ない方には代替品を提供したり、オリゴ糖を混ぜて水分アップに努めている。その他にもユーチューブで体操をするなど、体を動かして頂くよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があったりしたときは、無理をせず中止したり、極力その人の希望に応じて対応するようにしている。また、リフト浴を使用したり、個々の状態に応じた入浴環境を整えている。	週2回の入浴を基本とし全員がリフト浴としている。入浴時は職員と1対1になり、家族や昔の話などの会話をしながら、季節を感じられる柚子湯や入浴剤も活用した楽しい時間となっている。洗身、洗髪は、個々に出来る部分は自分で洗ってもらっているようにしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくために、日中体操をしたりレク活動をしたり、タオルたたみ等の作業をして頂くなど活動量を増やしている。昼食後は午睡をするなど、体を休める時間を作っている。また、居室の環境や温度設定など、安心して快適に眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服状況が分かるよう、薬剤情報をファイリングしてすぐ確認できるようにしている。また、服薬マニュアルをもとに、安全な服薬が行われるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに、趣味や特技、仕事等を把握し、テーブル拭きや洗濯物たたみ等を行って役割を持って生活している。また、おやつ作りや、ドライブ、季節の行事等で気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ソフトクリームを食べに出かけたり、紅葉狩りなど、集団での外出を行っている。また、ご家族の協力のもと、自宅へ帰るなどの個別対応も行っている。	コロナ禍にあっても、事業所からアクセスの良い胆沢ダム方面に出かけ、お花見や紅葉狩りを楽しむことを続けてきた。また、産直を回ってジェラートを楽しんだり、元朝参りも大切な外出機会となっている。施設の周辺には遊歩道があり、日常的に散歩を楽しむようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内に自動販売機やおやつの販売所などもあるが、お金を所持して購入したい希望者は現在いない。また希望者には、「預かり金管理」で対応可能だが、現在対象者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に帰りたいといった希望者がいた時に、自宅へ電話して家族と話をしてもらったり、希望があった都度対応をしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや長椅子を置いてゆっくりくつろいでいただくスペースや、座敷で休むスペースを設けている。また、利用者が作成した作品を飾り季節を感じてもらったり、プランターに花や野菜などを植えて過ごしてもらっている。	ホール内はエアコンと空気清浄機で空調管理されている。共有スペースにはゆったりとしたソファが置かれ、畳敷きスペースもある。季節ごとの鈴蘭や向日葵等の立体的な作品が壁面に装飾されており、利用者はボールバレーや体操で身体を動かしたり、職員とゲームで楽しむなどして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いて、食堂や居室ではない場所での居場所づくりや、リクライニングチェアを置いて休んだりする場所を設けている。また、利用者同士で座敷で洗濯物たたみをしながら談笑したりする環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具やテレビなど、本人の馴染みのものや好みのもを置いて、自宅と同じような環境に近づけるための雰囲気づくりに取り組んでいる。	居室には、エアコンとベッドが備え付けられ、利用者はそれぞれに衣装ケースやタンス、イス等を持ち込んでいる。壁には、家族の写真や自分で作成した切絵作品なども飾られており、利用者にとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの際は、「トイレ」と明記したものをドアに分かりやすく表示し、自力で排泄ができるような環境を作るなど、一人一人の力を活かせるように工夫している。		